となみの心

豊南小学校百年のあゆみの内後半の50年間、教員として26年半、高豊教育長として2ケ年、その後高豊教育後援会の会長として昭和50年まで実質的に、又後援的に関係を持つ自分としては思い出は山積し、特に現時点を見る時感無量なものがあります。

第一に申し上げたいのは一寸した問題があればすぐ学校に文句を云い、先生方の積極の鋒先と自信を鈍らせ勝なのが現状ではないかと考えられます。

この点でありますが、校区民が心から学校を信頼し、心から子供の教育を学校に任せ少々事があっても子供を思う真心の発露と考え――この教育優先のこの環境――その環境に応え、私も真の親心で子供に対しのびのびと信念を持って積極的に子供の教育に当る事が出来ました。

幸わせな26年、いな、50年でした。この環境は今も変わりはないと信じます。

あの涙ぐましいピアノの寄附、豊南小学校バレーボールについての思い出、学芸会の服装、車廻しの思い出、二宮金次郎の像にトラックがあたり首を折ってしまったこと、ブラスバンドのあの光景、運動場、校舎、校門の移転……現状を見る時夢のような気がいたします。

（元豊南小学校長　神藤峰一）